

令和4年10月12日

保護者の皆様

豊田市立前山小学校長 大野秀幸

学習用タブレットの利用について（お願い）その2

後期が始まり、毎日の学習用タブレットの持ち帰りがスタートしました。少し難しい内容となります、今回は「なぜ毎日の持ち帰りが必要なのか」について、お話をしたいと思います。

（1）今、ICT機器の活用が必要な理由

昨年度、中央教育審議会から『「令和の日本型教育」の構築を目指して』という答申が出されました。この中で、急激に変化する時代にあって、子どもたちが育むべき資質・能力が定義されました。

【子どもたちに育むべき資質・能力】

一人一人の児童生徒が、**自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう**にすることが必要

※こうした資質・能力を育むために、学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用が必要不可欠**であるとされました。

（2）「令和の日本型教育」における「子供の学び」の姿とは

「令和の日本型教育」では、『全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現』を目指します。この2つの「学び」を一体的に充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげます。

① 「個別最適な学び」とは

子供が自己調整しながら学習を進めていく学びです。この学びは、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理できます。

指導の個別化

一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

※これまでのように、**全員が同じ内容を同じ方法で学ぶだけではない**、ということです

② 「協働的な学び」とは

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する学びです。

異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

(3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方

<基本的な考え方>

- ・学校教育の基盤的なツールとして、**ICT は必要不可欠なもの**
- ・これまでの実践と **ICT とを最適に組み合わせ**ていく

学校教育の質の向上に向けた ICT の活用

○ICT を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実する

○特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行う

※要するに、以下のようなとらえが大切

- ・**端末の日常的な活用**
- ・**ICT は「文房具」**
- ・**ICT の活用と少人数学級を両輪としたきめ細やかな指導**

学校の授業においても、家庭学習においても、ICT の日常的な活用は避けては通れません。こうした時代の流れにしっかりと乗って、本校でも毎日のタブレットの持ち帰りを実施していきます。

もちろん、情報機器の正しい使用の仕方については、教員も保護者の方も心配があることでしょう。この点については、次の機会にお話ししたいと思います。

次回のお話の内容（予定）

デジタル・シティズンシップ教育について